

「精神障害者が、支援サービスを必要とした時に最初に読むナビゲート本」作成プロジェクト

原見 美帆 ●一般社団法人メンタルウェルビーイングパートナーズ 理事長



ミーティングの様子

1. 背景と目的

公益社団法人日本精神科病院協会の調査(2015年)では、精神科病院に入院中の精神障害者のうち、退院後、サービス・支援が必要と答えたのは50.9% (n=1,178)であったが、公益社団法人全国精神保健福祉連合会が精神障害者の家族に行った調査では、福祉制度に関する情報提供に「不満足」と答えたのは65.7% (n=1,750)であった。

また、公益社団法人日本精神保健福祉士協会が精神医療保健福祉分野の専門職に行った調査(2017年)では、「精神障害者に関する地域の資源をよく知らない」「どちらともいえない」「すこしあてはまる」「あてはまる」を合わせると47.0% (n=64)であった。以上のことから精神障害者や家族の支援情報取得は不十分な状況で、支援者は、自身の専門分野以外の情報については特に、十分な提供ができていないことが考えられた。

本プロジェクトは、「精神障害者が、支援サービスを必要とした時に最初に読むナビゲート本」を作成し、支援情報取得のサポートを目的とするものである。

2. 取組みの方法

精神障害者を対象とする代表的な支援サービスと窓口を掲載したナビゲート本を作成する。

対象地域は本法人が主に活動している和歌山県で、県内の医療・保健・福祉分野の支援者に各支援サービスの紹介文を執筆してもらい、ピアサポーター(自身も精神障害と向き合いながら同じ仲間の回復をサポートする人)等、当事者にもユーザーの立場で執筆してもらう。ナビゲート本は県内の医療・保健・福祉機関等を通じて精神障害者等に配布する。

3. 期待される成果

- 1) 精神障害者は多岐にわたる支援サービスを俯瞰的に把握することが可能となり、障害者への合理的配慮の具現化が期待される。
- 2) ユーザーの声や窓口を掲載することで利用相談への不安が軽減され、相談窓口へのアクセシビリティ向上が期待される。
- 3) ピアサポーターに執筆してもらうことで、ピアサポーターへの認知度が向上し、読者・ピアサポーター間の間接的なエンパワメント(お互いの力を引き出すこと)が期待される。
- 4) 支援者もナビゲート本を活用することで、自身の専門分野以外の支援情報をアップデートでき、支援情報提供の均てん化が期待される。
- 5) 精神障害者への支援をまとめることは、将来的に対象を拡大しながら地域包括ケアを展開するうえで、有益なツールとなることが期待される。